

Autumn for Reading

唐突ですが、皆さん、好きな「月」ってあるでしょうか？自分の誕生日がある月とか、好きなイベントがある月とか…。

私の場合は12月、3月、そしてこの11月が好きな「月」になります。そもそも季節では秋が一番好きだからということもあります、その中でも11月は特に空気が爽やかで、青い空に紅葉が映えて目に優しい…一方で日も短くなり、冬の訪れを予感させる寂しさもある…というのが何ともいいなあと思えるのです。

それに加え、私の愛読書、ムーミン・シリーズのラストを飾るのが「ムーミン谷の11月」だから、ということもあるかもしれません。

ムーミンのことを語ると、とても長くなってしまうので、ごく簡潔に説明すると…

- 日本ではアニメが有名だが、そもそもは全8作からなる小説。
 - 作者はフィンランドのトーベ・ヤンソンという女性。
 - 元々画家を目指していたため、挿絵が大きな魅力の一つ。
 - シリーズ前半の4作は、子供向けの作品という色合いが強いが、後半4作は哲学的な内容も含まれ、童話と言うよりは児童文学と言える。
 - そのラストが「ムーミン谷の11月」であり、この作品には、ムーミン一家は直接的には出てこない。※この作品から読み始めるのはやめましょう！
 - 私が読むようになったのは、中学生の頃。田舎に行く際に何か文庫本を買おうと思っていたところ、アニメで知っていたムーミンが本として売られていたので、「へえ」と思い、買ってみたのが始まり。以降、何回も読み返している。
- ※余談ですが、私が子供の頃の文庫本は200~300円くらいだった記憶があります。今はもう、高くて高くて…。

このムーミン・シリーズのような、ちょっと変わった設定の物語を楽しめない人は、一言で言うと、真面目過ぎてしまうのでしょうか…。おそらく「理解できないと先に進めない」ということなのでしょう。一方、私などは、すべてを理解しようとは全く考えておらず、ただひたすら、**その世界に入っていく**ということだけを考えています。意味がよくわからなくても、とりあえず進んでみる…そうすると後から「そういうことか！」と分かることも多いですし、仮にそうならなくても、別に構いません。

よくある質問で、「ムーミンって、何なの？カバ？」みたいなのがあります…そもそもそういう疑問を持つか否か、そこが分かれ道ですよね。ムーミンは何ものなのか…そんなことは気にせず、**そのままを受け入れ**ができるかどうか…。

因みに作者のトーベ自身は、ムーミンとは「そこにあるもの」というような、曖昧な答えをしています。

所謂「愛読書」というものは、たとえストーリーを覚えていても繰り返し読みたいと思う本のことです。そういう本は、読むたびに新たな発見があるものですし、それよりも、単にそこに書かれている「世界」が好き、その「世界」に浸るのが好きということで、何度も読みたくなるのです。僕にはそういう作品がいくつかありますが、皆さんはどうでしょうか？そういう作品に一つでも出会えたら幸せなことだと思います。